アカシア通信

発行；医療法人財団アカシア会　編集委員会
Vol.18（2021 年 3 月 17 日）
発行責任者；荒木浩二（法人本部　048－950-7207）

心に残っている あのこと このこと

平成29年（2017年）7月7日、122か国の賛成により採択された「**核兵器禁止条約**」は、平成29年（2017年）9月20日から各国による署名が開始されました。令和2年（2020年）10月24日、批准した国が発効要件となる50か国に達し、90日後となる2021年（令和3年）1月22日に、条約は発効を迎えました。しかし、条約には、核保有国や唯一の被爆国である日本は残念ながら参加していません。

非核・平和への希求　　発効！　核兵器禁止条約

クリニックふれあい早稲田　院長　大場敏明

「核兵器の終わりの始まり」カナダ在住で、被爆者のサーロー節子さんの言葉である。1月22日、核兵器が国際法違反となる歴史的な日を迎えた。核兵器禁止条約の意義について、ノーベル平和賞受賞の国際NGO「ICAN」（核兵器廃絶国際キャンペーン）のフィン事務局長は「国際法で禁止されると、後戻りできない巨大な影響を与える」と述べた。グテーレス国連事務総長は「世界的な運動の集大成」であり、国連の軍縮面の最優先課題の「核兵器の完全廃棄」にむけた重要な取組みだと語る。

核戦争防止国際医師会議（IPPNW）は「核戦争使用の恐ろしい脅威に立ち向かい、世界各地で活動している多くの活動家の功績だ」と述べた。日本の反核医師の会（PANW）は「我々は人類の未来に大きな希望を持つことができた」と声明を出した。

青空に向かって。広島「原爆の子の像」と、平和を願う折鶴

34年前の1987年、私は、民医連・保団連代表団の医師36人の一人としてニュージーランドで開催されたIPPNWアジア・太平洋地域シンポジウム参加した。苅先生、河野先生、児島先生らが中心となり大会決定文書に「核兵器廃絶は緊急の課題」の方針を明記させた。

当時は、「核実験の一時的停止と軍事費の削減」などという部分的・段階論的方針が中心で、日本の医師らが「核廃絶・核全面禁止」が緊急にして死活的な重要性を持つと主張した。

当時の報告パンフでは、「歴史の歯車は、いま大きく動こうとしています！」「核のない世界を創造するために」そして「平和な世界のために」戦い続けねばならないと結んでいる。　　＜保団連新聞から転載＞

被爆者歌人：前川明人さん「あの日が忘れられないように」との思いを込めて

＜被爆地という価値観は何なのか祈念像の上に湧きいる夏雲＞

2021.2.25 毎日新聞「ひと」より

どうして？　世界で唯一の被爆国日本が批准しないなんて信じられません

上野知子さんに戦争と、長崎での被爆体験のお話をお伺いしました。

昭和 10 年長崎県生まれ。現在 85 歳。6 歳の時に、戦争が始まり、昭和 20 年 8 月 9 日 10 歳で原子爆弾の投下を経験されています。
現在、埼玉県原爆被害者協議会の理事を務められ、埼玉県内の小・中学校、高校で戦争の経験をお話しされています。

濱口）（以下濱）当時のことを教えて下さい。

上野）（以下上）11 時 2 分に原爆が落とされました。私は 10 歳、2 歳年下の妹とみかんの木の下で遊んでいました。爆心地から 3kmと離れていたので、幸いにもやけどなどもなく助かりました。母と 4 人の兄弟みんな無事でした。

父が三菱の造船所で働いていて、中心地を通って帰って来る途中、一晩手伝いをしていました。父はそこで被爆をしてしまったのです。そして「ぶらぶら病」になりました。

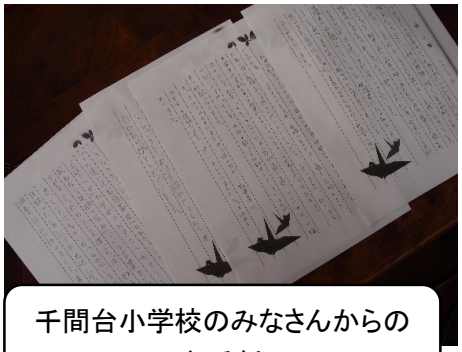
外見は何でもなかったけど、放射線の影響で体がだるくて毎日は働けずにいました。周囲の人からは「なまけ者」としか見られていませんでした。

濱）「ぶらぶら病」は聞いたことがあります。外見は何でもなくても、やはり被爆するというのは大変なことですね。

上） 父が「なまけ者」と見られることで、母が一番つらい思いをしたと思います。父は入退院を繰り返し、戦後 17 年生きて亡くなりました。母は戦後、雑貨屋を営み兄弟 5 人を高校まで出してくれました。はじめは売る物が何もなくて、家にあった物をみんな売っていました。母は子宮がん、大腸がんを患いましたが、93 歳まで生きました。最後は「私は幸せ者」と言っていました。

濱） 終戦の時のことは覚えていますか。

上） 終戦のラジオ放送が流れてきて母に「戦争が終わったよ。」と言われました。私は「これからゆっくり寝られるね。」と言いました。10 歳の子供がですよ。母が「今度戦争があったら死のうね。」と言っていました。それだけ辛いことだったのね。これだけは忘れられません。



千間台小学校のみなさんからのお手紙

濱） お母様は、小さいお子さんを守り抜いてとても大変でしたよね。
日本は、核兵器禁止条約への批准を見送っていますが、それについてはどう思われますか。

上） 52 か国もの国が批准しているのにね。

濱） アメリカの核抑止力に依存しているという記事を読みました。

上） 色々あるんでしょうけど、でもね、原爆を落とされている日本が批准しないのは、本当にどうしてと思ってしまいます。

濱） 若い世代にメッセージをお願いします。

上） あんな恐ろしい戦争だけはしてほしくないです。空襲警報が鳴って毎晩夜中に防空壕に隠れたり、お腹がすいても食べるものがないなんて思いをさせたくないです。被爆した後に炊き出しのおにぎりを貰って食べたのがおいしくて・・・ただの塩おにぎりよ。それが一番おいしくて忘れられないの。

私のひ孫が 4 歳だけど、絶対にそんな思いをさせたくない。万が一、核が落ちたら大変なことになりますよ。幸せな時代が続いてほしいです。

濱） 被爆体験などを学校にお話に行かれてどうですか。

上） みんなよく聞いてくれます。感想もたくさん書いて送ってくれます。こんな状況だから、昨年から学校に行くことはできなくなってしまったけれど。

濱） 私も祖父から「南の島に兵隊に行って、仲間がたくさん死んで・・・。」というのは聞いていましたが、詳しいことを聞くのは当時を思い出させてしまい、悪いような気がしていました。聞くことができないうちに、亡くなってしまいました。

■　今回、お話をお伺いすることができて、貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。上野さんは、とても上品でお元気で、こちらが元気を頂けるようなとても素敵な方でした。

　お忙しいところお時間を作って頂き、とても感謝しております。早くコロナ禍というこの状況が落ち着き、学校で生徒さんにお話ができることを願っています。

＜聞き手　就労移行支援事業所ラ・ポルタ　濱口妙恵子＞

事業所あれこれ　ケアマネ奮戦記

～ご縁があって利用者さんの人生に寄り添いながら～

居宅介護支援事業所ふれあい
主任ケアマネ　須賀　由香里

皆さんこんにちは。今回は居宅ふれあいのケアマネの 1 日を簡単にご紹介します。当事業所には 3 人のケアマネが勤務しています。徒歩・自転車・車とまちまちなスタイルで出勤し、キッカリ 9 時に始業します。

＜**愛の突っ込み**＞

先ずは**朝会**で前日の訪問の報告をします。そこでは、単に報告だけでなく、利用者さんの支援について、ちょっと困っていること、自分で考えてみたけど今一自信がない、他のケアマネだったらどうするか、など相談をすることもあります。そこからヒントや助言を得ることができる大事な時間です。また、報告をしている時に愛のあるツッコミが入ることがあります。「誰が？」主語が抜けただけで、相手に意味が通じない、自分の言いたいことが相手に伝わらないことを、この愛のあるツッコミから気付かされます。相手に分かりやすく自分の言葉を伝える。日頃から人と会話をする機会が多い私たちにとっては、とても有難い言葉の訓練の場となっています。

＜**イザ！　出陣**＞

朝会が終わると事業所での 1 日のスケジュールの確認。スタッフ間で伝達事項の確認を行い、各々1 日に数件の定期的な**訪問**をおこないます。訪問では、必要な介護支援が提供されているかを、利用者の居宅で利用者がいるところで確認します。所要時間は特に決められていませんが、一般的に約 30 分から 60 分程度になります。時々、ケアマネの訪問を忘れている利用者さん家族がいますが、それは困り事や相談事もなく平穏に過ごされている場合が多く、(そうじゃない場合もありますが)、忘れてもいいと思っています。相談事があるご家族は、今か今かとケアマネを待っているものです(そうじゃない場合もありますが)。

＜**支援の調整でテンテコマイ**＞

笑顔と真心が信条の私達です

訪問を終えて事業所に戻ると訪問の**記録**とそれに伴う**事務作業**を行います。定期の訪問の他にも、書類の提出や各種手続きの**代行業務**も行います。その日の内に事務仕事を終わらせたいので必死にパソコンに向かいますが、その間にも関連事業所からの**電話の対応**に追われます。また利用者さんからお電話で**相談**を伺うこともあります。**新規依頼**の電話も入ります。中には、「すぐにサービスが必要」という人もいて、要介護認定の結果がでる前に暫定的にプランを作りながら、早急にサービスを行わなければならないこともあります。また、病院からの退院日が迫っていて「居宅復帰後のサービス調整」が待ったなしというケースが依頼されることもあります。(誰がこの新規を受けるか？)受け持っている利用者の数と、サービスの調整に苦戦している状況などを考慮して、相談のうえ平和に担当者が決定します。担当者よろしく！そんなこんなで 5 時 30 分となり、蜘蛛の子を散らしたように徒歩・自転車・車で帰路につきます。

＜**忙しさの中でも、平和な「居宅ふれあい」**＞

以上が居宅ふれあいの 1 日です。とてもバタバタと忙しそうな感じでしょうか？
忙しいは忙しいのですが、チームワークのとれた、平和な居宅ふれあいです。介護のことは居宅ふれあいにお気軽にご相談ください。

＜**脳裏に残っているSさん**＞

約 1 年前に担当した S さん、70 代男性。癌のためターミナル。体力が低下して布団からの起き上がりとトイレに行くのが大変との訴え。起き上がる時にはタンスの取っ手に掴まっているという。ご家族はベッドを入れたい、ご本人は必要ないと言っているという、事前の情報を得ての初回夕方訪問。ソファーに座って大きなテレビの画面から視線を外さない S さん。ベッドを勧めても、やはり「必要ない」の一言。用意してきた置型手すりを説明し、やっとのこと了承を得て設置して帰る。帰り際、妻から「トイレに何回も行くのでベッドがいいって息子に説得されてもダメなんです。オムツも買ってこようかって言ってもダメで。」という。

翌日訪問し玄関先で奥さんに、「頂きものなのでお気になさらず試してみてください」とリハビリパンツをお渡しした。それから 1 週間もたたないうちに奥さんから「入院しました」と連絡が入り、残った手続きのため訪問。

妻） もともと入院するのが本人の強い希望だったんです。
私） そうでしたか
妻） 本当にありがとうございました。とっても喜んでいました・・・・紙パンツ。
私） （え～～～～～、そっち？！）
妻） これは私からではなく夫からです（何かの箱詰め）。ちゃんと渡すようにキツク言われてるので。
私） いえ、いえ
妻） 急にシジミ汁が食べたいって言うので、これから病院に持っていくんです。有難うございました。

結局、置型手すりがお役にたったかどうかは、最後まで聞けず仕舞い。でも喜んでもらえたのなら、それでいいです。シジミ汁、美味しく食べられるといいですね・・・・・

＜**私の原動力**＞

ご縁があって担当する利用者さんたち。症状の進行・改善・お見送り・自立。色々なことで一喜一憂している私たちです。ほんの些細なエピソードが、次の利用者さんに向かう原動力になっているのかもしれません。

ちょっと　いい話

引き出しの“魅力”　　認知症対応型通所介護「ふれあい倶楽部」

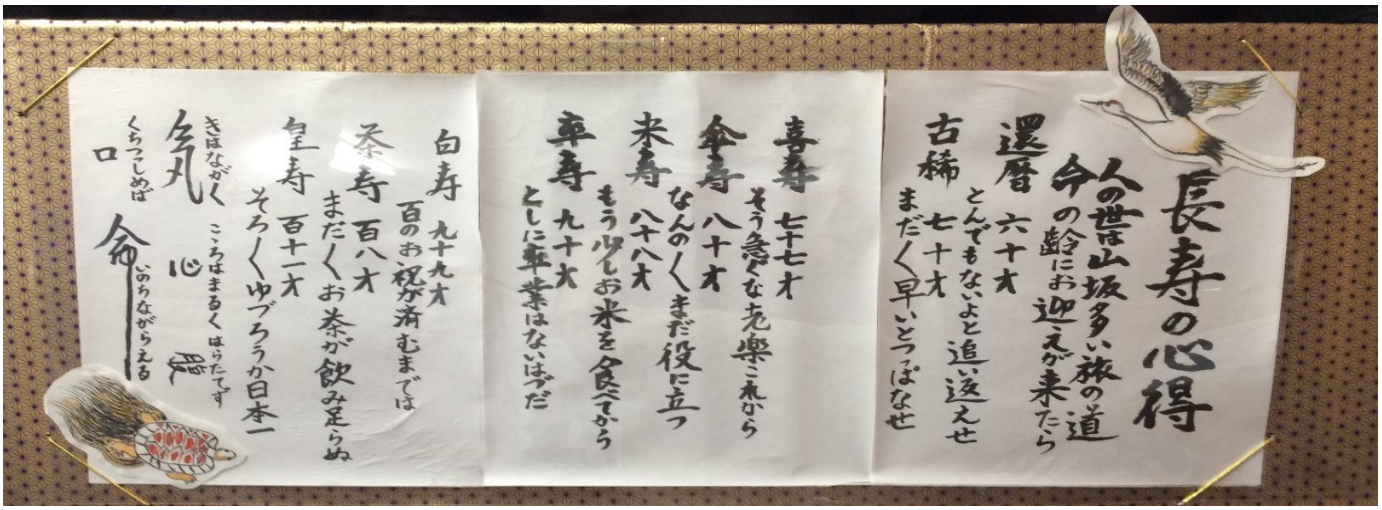
人は誰でも「引き出し」を持っています。ふれあい倶楽部の利用者様も様々な引出しを持っていて、それを発見するのがとっても嬉しいです。その魅力的な作品を紹介しましょう！！

色々な手芸作品　ぬいぐるみ、刺繍、刺し子、水彩画などを共同で制作しています。

フクロウ、ウサギ、猫、時には子どもなど様々なかわいいぬいぐるみをコツコツ制作されています。この冬はかまくらをテーマに作り上げました。

手ぬぐいに書かれた文字を手本として、筆ペンを使って写し書きしました。

普段は写経もされています。書くという作業にとりかかるまで時間がかかりますが、書き出すとグッと集中され、1～2時間で1枚書き上げます。



＜ time ～私の楽しみ～＞

山 魅せられて

クリニックふれあい早稲田　看護師　松原郁子

私が、山に魅せられたのは、45 歳を過ぎた頃でした。少々、仕事に疲れ、気分転換に中央アルプスの千畳敷カールに行きました。あいにくの曇り雨でした。それでも、登山する人がいました。曇り空の向こうには、どんな景色があるのだろう。そして、挑戦。途中、息が切れ苦しく、登るのを止めようと思った矢先にご年配の方が、「頑張りましょう」と声をかけてくださいました。また、行き会う人達から気持ちの良い挨拶を受けました。そして、登りついた時の素晴らしい景色、澄み渡った空、新鮮な空気、何とも言えない達成感でした。

山は、ずっとつながっていてそこにはどんな美しい景色があるのだろう。今度は、縦走したいと思いました。そして、挑戦。苦しい道のりは、あるけれど、愛らしい高山植物、鳥の鳴き声、ご来光や沈む夕日を見て、自然の素晴らしさに魅せられます。その光景を山の仲間と喜び合う、さわやかな出会いがあります。その時、悩んでいたことが吹っ飛び、心が洗われるひと時です。

毎年、登れるだろうかという不安はいつもありますが、体力をつけまた、挑戦する季節になりました。今年もまた日本の素晴らしい山々を目指します。

＜夏の白馬岳＞

＜紅葉の涸沢カール＞

【編集あれや　これや】

・Ａ（40 歳代）さんは、化膿性椎体炎が原因で脊髄損傷になり車いす生活をしています。3 月上旬に自宅に退院しましたが、入院中にカンファレンスがあり参加しました。その時、不安からお母さんは顔を下げたまま。私は、Ａさんに「退院後の楽しみは？」と聞いたところ「お母さんのカレー食べたい」と。お母さんの顔が上がり「わかった。嬉しい！」と。その場の雰囲気が少し明るく和みました。このような声かけが後押しになるんですね。勿論、退院日にはお母さん手作りのカレーでした。

「編集あれや　これや」でなくてすみません。でも、全体の記事に通じるものを感じる私でした。（Ｎａ）